

ニューポート黒船祭に参加して

下田市議会議長 増田 清

ニューポート黒船祭は、マシュー・C・ペリー提督の出生地、アメリカロードアイランド州ニューポート市で毎年開催されています。今回は私を団長として、訪問8回目の進士薫輝・妙子夫妻、3回目の杉村忠氏、陶芸が趣味の永田文明・京子夫妻、画家の池見かな子さん、市役所職員の小澤かおりさんら8名が10日間の日程で参加しました。

7月14日午前6時30分、石井市長、下田ニューポートクラブ池谷淳氏、渡辺副市長、野田教育長、土屋忍副議長、田坂富代総務文教常任委員長をはじめ市役所の幹部、そし



ニューポート市庁舎前にて

まで築いてきた交流の深さを認識させられます。

15日は、下田・玉泉寺に日本で初めてアメリカ総領事館を開設したこと

て家族の見送りを受け、成田空港に向け出発しました。

下田市とニューポート市との姉妹都市提携については、1958年（昭和33年）5月17日、下田市の第19回黒船祭式典にて姉妹都市成立が宣言され、当時の鈴木貞雄町長が初めてニューポートを訪問されました。

その後ニューポートでは、1984年（昭和59年）に第1回黒船祭が始まり、以降下田市とニューポートの相互の訪問による交流が行われ、下田市からの訪問者は、今年で延べ300名を超えました。改めて、姉妹都市としてこれ

り早く屋内のメイン会場へ移動することになりました。そこには、25名で構成された楽団による演奏が用意されており、和やかな雰囲気の中、晩餐会が始まりました。歌手による地元の歌に続き、ダンスタイムが行われました。

20年前に友人の小林さんよりレッスンを受けたダンスが役立ち、ニューポートの方とステップをともにしながら友好親善を果たすことができました。

18日は午前中ニューポート市内の歴史的な建造物を歴史協会の方の説明を受けながら2時間程度見学しました。建造物の保存、維持管理は民間団体が中心となっており（一部は行政が行っているが）、日本の保存方法と全く異なっていたことに驚きました。

もう一つ建造物で驚いた事と言えば、マンションという言葉の意味の違いです。昨夜の晩餐会の建物も大きく、日本の赤坂にある迎賓館を少し小さくしたぐらいの規模ではないかと思いました。日本でマンションといえば大きい高層な建物を連想しますが、アメリカでは迎賓館程度の建物がマンションと呼ばれている



夕食の様子

ことに大きな認識の差を感じさせられました。

視察を終えた後、市内のホテルにて、ナポリターノ市長の招待で昼食をご馳走になり、黒船祭式典が行われたトローパークにて午後2時よりワークショップが行われました。風づくりは、進士氏・杉村氏、生け花は進士夫人、風車づくりは永田夫人・山口啓子さん（ロードアイランド州日米協会理事で、ニューポート市と下田市の姉妹都市交流進展に多大なるご協力を賜っております。）英名漢字書道は永田氏、折り紙は池見さん・小澤さんが担当して行い、私も邪魔にならない程度にお手伝いをしていました。

皆さまは、ワークショップはニューポートでは恒例イベント

なタウンゼント・ハリスが創立したニューヨーク市立大学を訪問しました。図書館閲覧室にてハリスの偉大な履歴のプレゼンテーションを受けた後、グレゴリー学長主催の昼食会に出席し、石井市長からお預かりした記念品を贈りました。

大学訪問を無事済ませ、夜は在ニューヨーク日本総領事館西宮伸一総領事主催の晩餐会に我々訪問団が招待され、日本料理をご馳走になりました。その席では、来年ニューヨークにて開催されるハリスの記念行事に、大使館として参加したいとのことで、下田の黒船祭行事の執行の仕方などについて意見交換をし、領事館を後にしました。

今回の目的地ニューポート



ナポリターノ市長へ記念品贈呈（江波路子氏作の海藻おしぼ）

で、子供をはじめ多くの市民の方々に好評です。進士夫妻をはじめ今回参加された方々の現地での活動と熱意に心から感謝申し上げたいと思います。

ワークショップを終え、夕方方には、シモダウェイの住民の方々によるパーベキューに招待され、恒例の市警白バイ先導にて現地向かい、ナポリターノ市長と共に皆さんの歓迎を受けました。

19日はペリー提督墓前祭が午前10時より行われ、ペリー提督の偉業をたたえ、ともにその威徳を偲び参列者と共に参拝を済ませました。その後、ナポリターノ市長とスペンサー日米協会長の主催による昼食会が開催されました。会場のレストランは300年以上たつ歴史的建造物で、古き良き環境を残そうとするニューポートの方々の思いに關心させられました。

今回の訪問で唯一の2時間の自由時間では、36フィートのヨットにてクルージングを体験しました。ニューポートは、アメリカスカップヨットレースが長年開催された地であり、私も若き20代前半、下

市に到着したのは16日夕刻でした。到着後、早速市長主催の歓迎会に招待され、ナポリターノ市長の歓迎のあいさつに続き、私が挨拶し、60人の方々と歓談をしながら和やかに交流しました。

17日は10時30分よりトローパークにて、第24回黒船祭式典が開会され、バイナー日米協会長による歓迎の辞の後、ロードアイランドスミス州知事代理、在ボストン日本総領事館辻総領事の各氏が順に祝辞を述べられました。続いて行われたニューポート海軍大学長ワイズカップ海軍少将の祝辞では、アメリカの国旗が下田市に贈られるサプライズがあり非常に感激いたしました。そしてナポリターノ市長に続き、私が姉妹都市となった経過、ジョン万次郎の日米友好親善の功績、永年両市の交流を支えておられる方々へのお礼を申し上げ、友情と信頼の絆が永遠に続くことを願う挨拶をしました。続いて、ナポリターノ市長と一緒に献花を行い、無事式典が終了しました。

その後は式典会場の隣、エルク・ロッジにて昼食レセプ

田ポートサービス伊藤社長によりヨットのほじきを受け、元商工会議所金沢専務、花徳田畑社長、静岡放送下田特派員宮川氏が設立した下田ヨットクラブで海に夢中になっていた頃を懐かしく感じながら体験航海をしました。航海は、米海軍大学校へ1年間派遣されている海上自衛隊福田達也氏、アメリカ在住の音楽博士石田雪子夫妻と共に乗船させていただき、絶好のコンディションの中、ニューポート湾内を帆走できたことが思い出に残ります。

夜は、日米協会主催によるフェアウェルパーティがロードアイランド日米協会専務デビッド・ローゼンバーグ宅で行われました。今年下田市の黒船祭に訪問団として来られた方が中心となって大いに盛り上がりしました。来年の下田での再開を約束し、皆さんと別れを告げました。

20日は、プロビデンス・ポーケット市長への表敬訪問の後、世界でも有名なブラ



SHIMODA WAYでの記念撮影

ン大学を留学生浦部隼人さんの案内で見学し、夜はスペンサー夫妻主催の夕食会に招待され、今回の訪問でお世話になったお礼を述べ、ここでも来年5月下田市の黒船祭での再開を楽しみに別れました。

翌日の21日は電車でニューヨークまで戻り、22日にはニューヨークを出発、23日夜11時に下田に到着致しました。今回の訪問に際し、多くのニューポートや日米協会の方々からの温かいおもてなしに感謝申し上げます。ご同行していただいた進士氏をはじめとする訪問団の方々に御礼申し上げます。

シオンを済ませ、米海軍ワーカーレヅ・ミュージアムを訪問し、アメリカ海軍の歴史について説明を受けました。特に魚雷が1800年後半から研究されていたことには大変な驚きを覚えました。又日本の安政元年の地震に伴う津波とペリー艦隊の関係を調査しているとの説明も受け、幕末の日本との関係について研究が行われていることに感銘を受けました。

ニューポート黒船祭晩餐会は午後7時よりローズ・クリフ（マンション）で開催されました。約300名の招待者を、私と、スミス州知事代理、ナポリターノ市長、ワイズカップ海軍少将、辻総領事の方々と挨拶（握手）をしながら1時間程度の時間をかけお迎えしました。

こうして始まったガーデンパーティーは、途中激しい雷雨にみまわれ、我々は予定よ



ナポリターノ市長と共に献花